山口和雄前館長を悼む

三井文庫の常任理事で前館長でおられた山口和雄先生が、退任されてほぼ一カ年の平成一二年五月一日に、九三才で他界されました。

山口和雄先生は、昭和六一年四月に館長に就任されて以来、一三年間にわたって在任されました。就任されたときは、東京大学ついで明治大学をそれぞれ停年で退職され、創価大学経営学部に在任中ではありましたが、既に七十九才の高齢でおられました。しかし、三井文庫の館長に迎えられると、壮年期と変らぬ情熱と誠実さをもってその業務にあたられ、毎週の月曜と金曜の二日間、早朝から出勤、終日机に向われ、その態度は退任されるまでの間、ほとんど変るところがありませんでした。平成元年一二月には日本学士院の会員に選任されておられます。

三井文庫において、何よりも先生は、多年テーマとして取組まれた、日本資本主義の金融と流通の側面を、三井の発展にそくして研究することに努力を傾注されました。そして主として三井物産と三井銀行についての研究成果を、ほとんど毎号のように、『三井文庫論叢』に発表され続けました。なかでも前後四回にわたって三井文庫論叢に掲載された、三井物産の各時代における商品取引と漁業経営についての論文は、先生の晩年の研究の到達点を示す精緻なものであり、平成一〇年四月には『近代日本の商品取引』（東洋書林）としてまとめられました。

また館長在任期間における三井文庫では、平成元年に『近世後期の主要物価の動態』（東京大学出版会）を刊行、同五年には当文庫所蔵の近世における三井家文書についての「分類目録」の作成が発足、現在に至っており、翌六年には『三井事業史』本篇三巻中が上梓されました。『三井事業史』本篇三巻下も在任中にほぼ原稿完成のめどがつき、本年度

中に刊行の運びとなりました。

これらは三井文庫本館の研究業務ですが、就任前年の昭和六〇年には、三井家各家からの寄贈の美術品、文化財の保存と展示ならびに研究の機関として、別館が本館と併置され、業務活動を開始しました。山口先生は、別館の業務や研究は専門外でおられましたが、東京大学教授時代以来の親しい先輩かつ同僚で、美術に造詣の深い脇村義太郎理事の助力をえて、業務を担当されました。

山口和雄先生は、史料の収集・調査に何よりも興味をもち、その解読、考証と分析にうちこまれ、さらに史料の保存、整理、複刻にも大いにつとめられました。これらは私ども三井文庫にかかわる者にとって、行動をもって範を示されるものであったことはいうまでもありません。

山口和雄先生は、壮年時代の大学人としての生活と同様に、晩年の三井文庫の館長としての生活においても、ご自身の責務を着実、誠実に尽され、退任とともに徐々に体力を失われ、静かに他界されました。

ここに先生の多年にわたる御教導のすべてにたいし、館員一同御礼を申し上げるとともに、御冥福を祈念したいと存じます。

（館長　由井常彦）